

～いざという時のために～

災害は、いつ起るかわかりません。

万が一の場合、冷静に行動できるよう、普段からの心掛けが重要です。

東北学院大学教職員 防災マニュアル

この防災マニュアルは、大規模地震を想定して作成しています。

大規模地震以外の、火災その他の災害に関しては、本マニュアルの他、各キャンパス防火管理規程に従って対応してください。

なお、本マニュアルのほか、学生向けマニュアル、緊急時における休講及び試験延期等に関する実施要項もあわせてお読みください。

☆大規模地震(以下「地震」)が起こったとき

1. 災害緊急対策本部の設置

■地震が起きた場合には、直ちに「災害緊急対策本部」が土樋キャンパス本館会議室（事務局 総務課）に設置されます。

ー 他のキャンパスに設置される場合もあります ー

〔災害緊急対策本部は次の対策を講じます〕

①本部長は、直ちに学生救済班及び教職員救済班の設置を要請し、集合した教職員を中心に各班の組織を編成し対応を指示する。
班編成された教職員は、速やかに指定された班の任務につく。

②本部長の指示に基づき学生・教職員の被害状況、施設等の被害状況、学外の災害状況の把握に努める。また、学生・教職員を安全な指定避難場所に避難誘導する。
退避した学生および教職員は、本部長の指示のもと、学内の保全等必要な対応および退避者の安否確認等に協力する。

- ③負傷者がいるときは救急処置をとる。必要な場合は応援を求め、保健室（救護所）へ担架で負傷者を運ぶ。担架は次の場所に備え付けてある。

【担架設置場所】

- ・土 樋キャンパス：保健室・施設課・就職課
- ・多賀城キャンパス：保健室
- ・泉 キャンパス：保健室・2号館1階事務室・体育館・管理センター

- ④帰宅が可能な学生と帰宅が不可能な学生の氏名を把握する。帰宅可能な学生に対しては、帰宅の意思を確認し帰宅させ、帰宅不可能な学生に対しては、本部長の指定した避難所に収容する。

2. 学内にいる教職員の対応

地震の揺れが収まるまで

（1）授業・実験実習中の教員

学生に対し次の指示をすると同時に教室・実験実習室からの退出口を確保する。

- ①火気・危険薬品を使用中は、ただちに安全措置を講じること。
- ②ガラス窓に近づかないこと。
- ③速やかに机の下に身体（とくに頭部）を隠し、落下物・倒壊物・ガラスの破片から身を守ること。

（2）研究室・事務室・図書館等の施設内にいた場合および学内歩行中の教職員

火気を使用中であれば、直ちに安全措置を講じ、ガラス窓に近づかないようにして部屋の退出口を確保し、速やかに机の下に身体（とくに頭部）を隠し、落下物・倒壊物から身を守る。廊下を通行中の場合は、ガラス窓のない、壁の近くに身を寄せる。室外にいた場合は速やかに近くの安全な場所に移動し地震の揺れが収まるのを待つ。周囲にいる学生にも同様の指示を行う。

地震の揺れが収まったら

- （1）学生を指定の避難場所に誘導すると同時に、学生の安全確認、被害状況確認について別紙の体制をとる。その後、学生の避難状況・建物等の被害状況を把握し、災害緊急対策本部（事務局 総務課）に報告し、次の指示をまつ。

- （2）身近に火災が発生した場合は、初期消火に努める。

（3）授業・試験の再開と中止（試験の延期）の告知

地震発生時に授業及び試験監督を行っていた教員は、避難後に、「授業・試験の再開と中止（試験の延期を含む）」については防災マニュアル（学生）に記載があるが、な

お各種報道並びにインターネットによる情報に注意のこと。」と学生に伝える。

3. 学外にいる教職員の対応

登校可能な教職員は、家族の安全を確認した後、自らの身体の安全を確保しながら、速やかに近くのキャンパスに登校し、災害緊急対策本部の指示を待つ。
登校不可能な教職員は自宅で待機して災害緊急対策本部の指示を待つ。

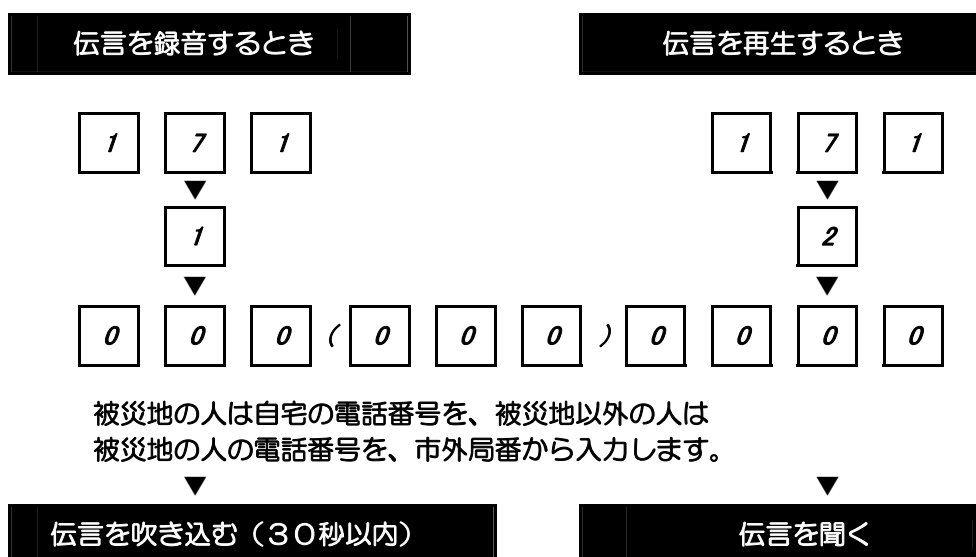
4. 地震時の救護の心得（応急処置について）

突発的に起きる地震により、ケガや病気にかかる場合が予想されます。そばに医師がいることは稀であり、医師からの適切な治療措置を受けるまでの応急的な処置を常に身につけておくことは、教職員として必要な知識といえます。これからの、応急処置に関する研修・講座に積極的に参加し、いざというときの準備としてください。

安否確認方法

●災害用伝言ダイヤル「171」

NTTは、被災地への安否確認電話が集中する場合に「災害用伝言ダイヤル」サービスを開始します。被災地の方々の自宅の電話番号をキーにして、伝言の録音及び再生により、連絡を可能にするボイスメールです。被災地等への電話が殺到し、つながらない場合の有効な手段となります。



●公衆電話を利用する

災害発生時、公衆電話は一般電話よりつながりやすくなっています。自宅周辺の公衆電話設置場所を事前に確認しておくとう便利です。

●遠隔地に中継地点をつくる

災害時であっても、被災地から外部への電話は、比較的つながりやすいと考えられます。遠隔地の親戚や友人などに依頼して、連絡中継点をつくっておきましょう。

防災の心得

日頃より、以下のことに留意し、身の回りの防災に努めてください。

- ☆ 喫煙は灰皿のあるところで行い、火の始末を確実にする。
- ☆ 防火扉、屋内消火栓の前及び廊下、階段に障害物を置かない。
- ☆ 実験室においては、燃えやすいものを熱源の近くに置かない。
- ☆ 部室・ラウンジでは、常に整理整頓を心掛け、万一の際、安全に避難できるようにする。
- ☆ 学内で実施される消防訓練には積極的に参加し、消火器・避難器具の使用法について普段から慣れておく。

5. 東北学院大学避難場所

●指定避難場所（学内指定避難場所を確認しておきましょう）

平常から号館名、教室番号、非常口、階段、出入口等をよく覚えておいてください。

